



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692(住所記入不要)
☎0276-88-5511(代表)
☎0276-47-5007(企画課直通)
☎0276-89-0136
🌐https://www.town.ora.gunma.jp
✉kohoo@wan.town.ora.gunma.jp

おうらお知らせメール
配信を希望する人は、右のQRコード
から、ご登録をお願いします。
🌐http://cc9.easypocket.jp/(RT-177)/PC
🌐http://cc9.easypocket.jp/k/ (携帯電話)

QRコード

QRコード



〈第八十九回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



昔の観音堂は観音橋の脇にありました。その後、藤川の河川改修のときに移転。現在は邑楽消防団第2分団第2班の詰所北にあります。

秋の演劇会

一本木には古くから、秋の彼岸に、十一面観世音のお堂で、子どもがお祭りを仕切る七夜連中と言う行事があった。小学生の子どもたちを各戸から一人参加させ、観音堂の飾りつけや、道端に行灯を立て、夜は明かりをつける村を挙げての祭りで、先輩が手伝って行った。

一晩泊まることになっていった中日には、八木節大会や、浪曲師を呼んだり、芝居一座を呼ぶこともあった。この余興を私が頼まれたが、芸人を呼ぶ予算がないから仲間ですることになった。

早速仲間集めを始め、相談の結果「弁天小僧」が良いだろうということになった。これだけではと兵隊漫才、舞踊、剣舞などをやることになった。当日は、舞台が出来上がり、電気も赤々と点いて、観音堂の庭は人でいっぱいになった。劇二つ、漫才・舞踊・剣舞・歌などで演芸会が進められ、座長である私は喜びでいっぱいになった。

昭和12年の話で、当時私が17歳であった。現代のように、テレビなどの娯楽がたくさんある時代と違い、素人が工夫して精いっぱい演じた昔の素人演芸会は、努力と工夫の連続であった。世間の人々が、その素人演芸会を娯楽として求めて

いた時代に、大きな貢献をしたのだと今、思うのである。

高島村をのみ込んだ台風

石打の高台にある菅原神社の火の見やぐらの半鐘が、カンカンと連打され、水防団員に非常召集がかかり、兄は「三つ又の堤防が決壊したかも知れない」と言いながら身支度をして、足早に現場に向かった。忘れもしない昭和22年9月14日、15日の集中豪雨をもたらしたキャサリン台風（カスリーン台風）である。一夜にして、わが村のほとんどをのみ込んだ、未曾有の大水害であった。

百年に一度とも言われる集中豪雨、キャサリン台風によって各河川は増水し、渡良瀬川、利根川などは警戒水位をはるかに超えた。利根川は、太田付近、渡良瀬川は毛里田村（太田市）や借宿（足利市）などで堤防が決壊し、濁流は休泊村（太田市）境の休泊川、矢場川などの堤防を越えて高島村地内に押し寄せ、一夜にして白海となった。北西の渋沼、北の一本木、秋妻、東の藤川の家々は、湖面に浮かんでいるように見えた。未だかつてない村全域をのみ込んだ大水害。一面の白海は、数日で下流の野小学校北の水田地帯を大河のように、洋々として多々良沼の方へ流れていた。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
(平成20年6月28日発行「邑楽町のくらしの四季(第九集)あすへひとこと」)より一部抜粋

ひとりごと From editors

▶皆さんは今年の夏はどう過ごしましたか。新型コロナ対策。想像を超える長梅雨。梅雨明け後、連日の猛暑。そしておうら祭りの中止。今年は30回目の記念年でした。なんだかぼっかりと穴が開いてしまったような夏だったのではないのでしょうか。こうなったら次回に盛大に持ち越し！▶さて、台風の季節が訪れます。昨年のような大型が来ないことを祈りますが、気象ばかりは神のみぞ知るところ。防災は日々の準備と心構え、そして正確な情報収集が大切です。アンテナを高く張り、広報おうら7月号の防災特集をおさらいしてください。おうらお知らせメールや町公式ツイッターもご活用を。登録のお手伝いは役場企画課まで。情報収集も備えあれば憂いなしです。(小室)



お堂を背に
(寺中地内)

Photo 広報担当者Ⓞ